

## 『大切な水』

私にとって水は、本当に大事なものだと思います。それは、私が体験したことや、今私に関わることから結びつくことができます。まず、私が体験したことです。あれは、私が小学校一年生の時の夏の出来事です。学校の昼休み、いつものようにおにごっこをして遊んでいたときのことです。その日は、気温が三十度を超えていたと思います。ふと急にめまいがして、ふらふらしてきました。吐き気も少しありました。目の前が暗いのか、明りのか分からないほどチカチカしてわけが分かりません。まだ歩けたので、友達に支えられ、やっとのことで保健室にたどり着きました。その数分間、あまり記憶がないほどしんどかったです。そして、ベッドで寝ました。目が覚めると、さっきまでのしんどさがなくなりました。そして、保健室の先

奈良県立青翔中学校 三年

北隅 奈王

生と話をしました。「今日みたいな三十度を超える日は、ちゃんと水分補給しないと。」と言われました。でも、当時小一だった私は、今の自分がしんどいのか、のどがかわいていのかよく分かっていなく、特に今回はおにごっこをしていて余計遊びに集中しているの自分の状態を把握しきれていなかったと思います。私はその時、初めて熱中症になりました。急に症状が出るので、そうなる前から対策をしないといけないと思いました。遊ぶ前に水分補給をして、のどがかわいてなくてもこまめに水分補給をとることは大事だと思います。

もう一つは、現在私は茶道部に所属しています。ここでも水に深く関わっています。茶道では、お抹茶を飲みます。水を沸かして抹茶の粉をクリーミーに泡立てるのに必要なのが

お水（お湯）です。水がなければ始まらない  
なと思いました。また、茶道では、亭主がお  
点前中、三つの音を出し、お客様がその三つ  
の音を楽しむというのがあります。一つ目は、  
釜の湯がたぎる音、二つ目は、茶杓で茶碗を  
打つ音、三つ目は、水を釜に入れたり湯を茶  
碗にいれたりする音です。これらは茶室が静  
寂であるからこそ際立つ音で、音を楽しむと  
いうより音を響かせることで音と対照的な静  
寂を感じるものになります。一つ目と三つ目  
の音は水に関わる時の音です。水のわく音は、  
人の生活の営みを感じさせ、水を茶碗に注ぐ  
音によって、私の心は、落ち着きます。また、  
お茶室に入る際に手を清めるのも水です。水  
は単に手を洗うのではなく、清めるという感  
覚的なことにも使われます。さらに日本の庭  
には鹿威しというものがあります。鹿威しは  
もともと動物の侵入を防ぐためのものだった  
ようですが、今は、風流さを感じさせる、日  
本独特のものになりました。

以上のことから、私は、水は、自分の命や  
生活に直接的に関わったり活用されているも  
のだと分かりました。水は単に私たちを生か

してくるだけではなく、私たちの精神面でも豊かにしてくれているのではないかと思っ  
ています。